

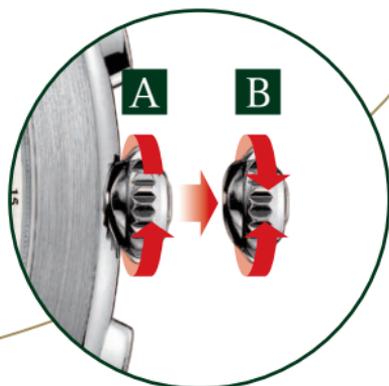
INSTRUCTIONS FOR USE
MODE D'EMPLOI

TOURBILLON,
MINUTE
REPEATER AND
CHRONOGRAPH

CALIBRES 2874 AND 2934
HAND-WOUND

AUDEMARS PIGUET

Le Brassus



日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています。
読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリック
してください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス
«日本語»をクリックしてください。

保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する
全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証
書に記されています。



目次

イントロダクション 174ページ

- オーデマ ピゲのマニュファクチュール

時計について 178ページ

- トゥールビヨン
- ミニッツリピーター
- クロノグラフ

この時計について 184ページ

- ムーブメント
- ムーブメントの仕様
- 特徴

機能の使い方 188ページ

- 時計の表示と機能
- 時刻合わせ
- ムーブメントの巻き上げ
- ミニッツリピーターの機能と 使用方法
- クロノグラフの使用方法



イントロダクション オーデマ ピゲ マニュファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷

ジュネーブの約50 km北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は18世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンビエと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の1881年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌したのです。





偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール＝ルイ・オーデマとエドワール＝オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーブに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォ

ール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、「伝統と革新」を追求しつつ、ハイエンドウォッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。



国際的な成功を収めたオーデマ ピゲ は、1972年にステンレススティールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウォッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル オークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション、トラディション オブ エクセレンスを発表します。オーデマ ピゲはこのシリーズの一環として、オーバルケースデザインのミレネリーのトラディション オブ エクセレンスNo.5を発表しました。この時計には、パワーリザーブ・インジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせず革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。

時計について

ツールビヨン

18世紀の後半から、最も卓越した時計製作者たちが時間測定の正確さを高めることに身を捧げてきました。

克服すべき大きな問題は、どんなポジションでも時計が同じように調節されるようにしようとすることでした。地球の重力の関係で、垂直に配置された調節パーツ（テンプ、ひげぜんまい）は、非常にわずかな平衡差にも悪影響を受けてしまい、時計の歩度にずれが生じてしまいます。

1801年、時計製作者アブラハム・ルイ・ブレゲは、どんなポジションにあっても、歩度のずれを平衡化するツールビヨンを用いた調節システムを考案しました。

機能の原理は、現在まで全体的には同じものです。つまり、脱進機のパーツ（歯車、アンクル、テンプ）はムーブメントに固定されておらず、可動ケーシングによって支えられています。このケーシングは脱進機パーツによって1分ごとに一回転するため、部品全体が常にポジションを変えられるようになっています。こうして、重力の影響による歩度のずれを補うことができるのです。

185年後の1986年、オーデマ ピゲは、自動巻き機械式ムーブメントを用いた極薄腕時計シリーズにおいて初めてこのシステムを組み入れることに成功しました。

オーデマ ピゲは今日、25のツールビヨン搭載ムーブメントを有し、このコンプリカシオンのあらゆる秘密を自在に操る、世界でも有数のマニファクチュールとなっています。



時計について

ミニッツリピーター

ジュウ渓谷の時計師たちは、いつの日もソネリ機構に大きな情熱と生まれ持った才能の全てを傾けてきました。山間の静けさと、雪が降り積もる長い冬のしんしんとした世界の中では、小さなオルゴールのような機構が奏でるクリスタルのように透明な音色が、より一層神秘的に聞こえるからかもしれません。あるいは、この複雑なメカニズムが、今や伝説となっている発明の精神を掻き立てるからかもしれません。

1875年にル・ブラッシュに創設されたオーデマ ピゲ マニュファクチュールは、いち早くソネリ機構搭載時計の技術を発表し製作を開始しました。1889年、オーデマ ピゲは、好きな時に時間、クォーター、分を鳴らすことのできるミニッツリピーターを搭載した“グラン コンプリカシオン ポケットウォッチ”を発表しました。

ミニッツリピーター機能はケースの左側に守られるように配された巻き上げレバーによって作動します。サファイアクリスタルバックから垣間見ることができ2つのゴングは、ハンマーのリズムに乗って時間、クォーター、分を奏でます。

トゥールビヨン・ミニッツリピーター・クロノグラフは、好きなときにいつでも時を奏でてくれます。低音のゴングで時間、高音・低音の連続音でクォーター、高音のゴングで最後のクォーターから経過した分を報せます。この時計には特に高度なメカニズムが必要とされます。時計は本物の楽器のように調律されていなければならないだけでなく、いつでもいくつ鳴らすべきか知っていなければならないため、特に高度なメカニズムが必要となります。





時計について クロノグラフ

時と場合によって、2つのアクションを別々に測らなくてはならない時が決まっているものです。そのような時にクロノグラフは欠かせない道具となります。

現代におけるクロノグラフの歴史は、ジュウ渓谷の時計職人アドルフ・ニコルが1844年にコンプリケーションとして特許登録したことに始まります。

1875年より、オーデマ ピゲは世界でも最も複雑で、最も性能の高いクロノグラフを製造開発してきました。

オーデマ ピゲのツールビヨン・ミニッツリピーター・クロノグラフの手巻きムーブメントは、百年以上も受け継がれてきた哲学を見事に継承しています。

この時計について ムーブメント

キャリバー 2874



ケースバック



ダイヤル側

ムーブメントの仕様

ムーブメントの厚さ: 7.65ミリ

ムーブメントの直径: 29.90ミリ

振動数: 3 Hz (21,600 振動/時)

石数: 38

パワーリザーブ (ミニマム): 約48時間

手動式巻上げ

ジャイロマックステンブ

ブレゲヒゲゼンマイ

可動ヒゲ持ち受け

部品数: 504

特徴

トリプル コンプリケーション ムーブメント

軸歯車クロノグラフのメカニズム

30分計

手作業で仕上げを施したブリッジとメインプレート

手作業で仕上げを施したカットパーツ (ポリッシュ仕上げのアングル、表にライン ドローイング、裏にスクランブル ライン)

この時計について ムーブメント

キャリバー 2934



ケースバック



ダイヤル側

ムーブメントの仕様

ムーブメントの厚さ: 8.08 ミリ

ムーブメントの直径: 29.90 ミリ

振動数: 3 Hz (21,600 振動/時)

石数: 43

パワーリザーブ (ミニマム): 約40時間

手動式巻上げ

ジャイロマックステンプ

ブレゲヒゲゼンマイ

可動ヒゲ持ち受け

部品数: 464

特徴

トリプル コンプリケーション ムーブメント

軸歯車クロノグラフのメカニズム

30分計

手作業で仕上げを施したブリッジとメインプレート

手作業で仕上げを施したカットパーツ (ポリッシュ仕上げのアングル、表にライン ドローイング、裏にスクランブル ライン)

機能の使い方

時計の表示と機能

(図を参照)

クロノグラフ機能により、1/6秒から30分までを測定することができます。

- ① 時針
- ② 分針
- ③ スモールセコンドの針
- ④ クロノグラフの針
- ⑤ クロノグラフの分積算計の針 (30分積算計)

クロノグラフ:

- E クロノグラフ機能のラップボタン
一回押す: スタート
再度押す: ストップ
- F ゼロに戻すプッシュボタン

ミニッツリピーター:

- G ミニッツリピーターの巻上げレバー

この時計は2つのポジションを有するリューズを備えています。

- A 位置 手巻き
- B 位置 時刻合わせ



機能の使い方

時刻合わせ

リューズをポジション **B** に引き出します。時刻合わせをする時はリューズを前後に回すことができます。時間調整時には設定希望時刻より5分進めてから希望時刻に戻すことをお勧めします。歯車かみあいが正確になり精度がより高くなります。

注意: ミニッツリピーター機構の作動中に時刻合わせはしないでください。

ムーブメントの巻き上げ

この時計は手巻き式ムーブメントを備えています。

毎日同じ時刻に時計を完全に巻き上げることをお勧めします(リューズは位置 **A** で)。最後まで巻き上がったならそれ以上無理に巻かないよう、ご注意ください。

リューズには連動遮断機が備えられており、最大巻き上げ時にそれ以上無理に巻き上げようとしてバレルのメカニズムが損傷するのを防いでいます。巻き上げの最後にリューズが切り離されて真芯をそれ以上回さなくなりますが、このクラッチシステムによる軽い抵抗が残ります。

ミニッツリピーターの機能と使用方法

トゥールビヨン・ミニッツリピーター・クロノグラフは、2つのハンマーと2つのゴングを有し、低音のゴングで時間、高音のゴングで分、そして高音・低音の連続音でクォーターを報せます。

例: 3時37分



ミニッツリピーターを作動させるゼンマイは、ケースの左側をスライドするレバー **G** によって巻き上げられます。

セキュリティ ロックが、レバーが完全にスライドされない限り、ミニッツリピーターが作動するのを防ぎます。

注: レバーのスライド距離は鳴らす時間の数により異なります。

注意: ミニッツリピーターが作動している間、レバーに外からの力が加わらないよう、ご注意ください。

機能の使い方

クロノグラフの使用方法

スタート

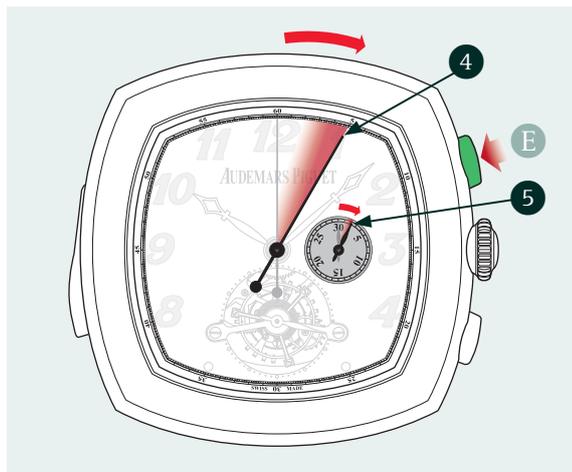
プッシュボタン **E** を押します

ストップ

再びボタン **E** を押してください

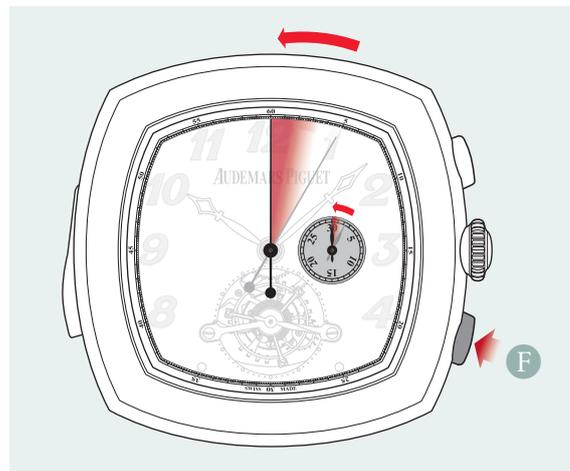
記録された時間の読み方は、以下の様に行います。

- クロノグラフの針 **4**
- 分カウンターの針 **5**



ゼロに戻す

プッシュボタン **F** を押します



時間測定の続き

一旦ストップしてから、クロノグラフを、ゼロに戻さずに、随時再スタート、再ストップを行い、最初とそれ以後の測定値を加算する事が出来ます。操作中も、時計は正常に進みます。

